

平成27年度 第2回大和市総合計画審議会 会議録

- 1 日 時 平成28年2月4日(木) 13時30分～15時40分
- 2 場 所 市役所5階 第5会議室
- 3 出席者 委員11名
(井川、池田、遠藤、大津留、川渕、田中(孝)、田中(寛)、谷中、中林、長谷川、平田)
- 4 傍聴人 なし
- 5 次 第
- 1 開会
- 2 議題
- (1) 第8次大和市総合計画の施策評価
- ・ 各部会長からの報告
- 3 その他
- 施策評価の提言について ほか
- 6 会議資料
- 資料1-1～1-7 : 施策評価(二次評価)シート(案) ※第1評価部会分
- 資料2-1～2-6 : 施策評価(二次評価)シート(案) ※第2評価部会分

【議 事】

- 会長 : 議題(1)第8次大和市総合計画の施策評価について、はじめに第1評価部会の部会長から報告をお願いする。
- 委員 : **【資料1-1～1-7について報告】**
- 会長 : ただいまの報告を受けて、質問や意見はあるか。
- 委員 : よく横浜市と大和市は比較されて、横浜市全体と比べると大和市は敵わないかもしれないが、身近なところでは、瀬谷区から大和市に転入する人が多い傾向にある。瀬谷区でその理由を確かめたところ、「医療」と「学校給食」を挙げた人が多く、その部分は横浜市でも対応することができないということだった。大和市だけを見ていると見落としがちだが、外からの評価を聞くと頑張っていることが分かりやすい場合もある。
- 会長 : ほかに質問や意見はあるか。
- 委員 : 個別目標2-3に関わって、子どもの一時保育についての審議はあったか。
- 事務局 : 一時保育は実施しているが、評価部会の中で、具体的な審議はなかった。
- 委員 : 仕事をしていない人でも一時保育を利用できる体制を整えてもらいたい。例えば、二人目を産むために、上の子を一時保育に預けたいと思っても、定員オーバーで受け付けてもらえないと聞く。保育園の入園基準を満たさない、パートなどの保護者の方が一時預かりの予約を入れてしまって、本当に必要な人が預ける隙がないということもあるようである。今は「働くお母さん」と「働いていないお母さん」という括りしかなく感じるが、働いていないけれど預けたいというお母さんも支えていけるような取り組みを考えてもらいたい。

- 委員 : 瀬谷区では子どもが多いこともあり、保育の条件を満たさない人たちが幼稚園の一時預かりにシフトしている現状がある。一時預かりの制度は、予め登録しておいて予約した日に預けるというものだが、保護者の方が一番困るのは、急に用事ができて子どもを預けなければならなくなった場合で、それを制度として構築していくのは非常に難しいことだと思う。本来は地域の中でお互いが簡単に預けられるような関係を築きあげていくことが大切で、個別目標にある「助け合う福祉のしくみづくりを推進する」に関わって、子育て支援の体制も考えていけるとよいと思う。
- 委員 : 「預け合う」ということでいうと、ファミリーサポート事業といって、預かる人と預けたい人が予め会員になっておいて、急な用事があるときに預けるというシステムがある。保育園の一時預かりは大体1日2千円くらいで、ファミリーサポート事業は1時間で数百円かかるので、費用は少し高いが、さまざまなニーズにこたえていて、かなり利用されていると聞く。横浜市では、子育て広場を実施するための建物があって、そこで一時預かりもしている。大和市では「こども〜る」として実施しているが、商業施設の一角を使用しているので、子どもを預かることはできないように感じる。できれば施設をどこか借りて、親子でも遊べるし、一時預かりもできるようにするとよいと思う。
- 会長 : 子ども・子育て支援事業計画の中にも「地域の子育て支援者の育成・支援」という項目があるが、地域社会全体で子育てを支えるというのは、昔の日本ではどこでもあったことのように思う。基本的に「公」にお願いするところはもう超えているので、市民力をどう束ねるかという仕組みが大事になってくると思う。
- 委員 : こども〜るはどれくらい利用されているのか。
- 委員 : 保育士さんがいて読み聞かせなどをすることもあり、それなりに利用はされていると思う。ただ、分かりづらい場所にあり、薄暗い印象があって、中部・南部地域の人には子育て支援センターもあるのでよいかもしれないが、北部の人にはこども〜るしかないのもう少し配慮が必要だと思う。お母さんたちが集まって、みんなで助け合おうという動きもあるので、それを応援できる体制を整えてもらいたい。例えば、自治会館を週2回くらい子どもたちにオープンにするなど、地域で支える仕組みがあるとよいと思う。
- 会長 : 評価の中でも、大規模な商業施設だけでなく、商店街の空き店舗など身近な場所でできるとよいという記載もあったが、箱の問題以外に人の問題もある。コストがかかることはもちろんだが、資格を持った人をどう確保するかという問題もあって、合計特殊出生率が高いということは、需要はあると考えられるので、今後検討してもらえればと思う。
- 委員 : 「今後の施策展開に向けて」でも、こども〜るに関しては「より相談しやすい環境づくりを整えていく必要がある」と評価しているが、無料でスペースを借りていることもあり、環境面で課題があることは所管課も承知しているようだったので、今後改善が図られていくものと考えている。
- 会長 : ほかに意見や質問はあるか。
- 委員 : 「こども110番の家」に関して、登録してくれている人も高齢化が進ん

- でいて、ある程度の年齢になると、子どもが逃げ込んできても何もしてあげられないということで、受け入れてくれなくなる傾向にあったように思う。
- 委員： 評価部会の審議の中でもその話が出て、運用や体制の見直しを検討する時期にきているのではないかという意見が出されたと記憶している。
- 会長： 登録数に地域差があるという記載があるが、具体的にどのような差があるのか。高齢化率などと相関関係があるのか。
- 事務局： 学校単位で登録の受付等を行っているので、学校の取り組み状況によってエリアごとにばらつきがあるとのことで、高齢化率とは直結していないようである。
- 委員： 中学校区によって、こども110番の家は必要だから広げていこうという議論をしてきたところもあって、その存在自体が十分に知られていないから、PRを積極的に行ったということもあった。
- 委員： こども110番の家は、対象は個人宅のみなのか。
- 事務局： 基本的には個人宅だが、商店や会社の事務所などでも受け入れてくれるところはあると聞いている。
- 委員： 個人宅では昼間留守にしていることも多く限界があるので、事務所とかお店とかがもっと受け入れてくれるとよいと思う。
- 会長： ほかに意見や質問はあるか。
- 委員： 文化財に関わって、つる舞の里歴史資料館などは、何回も観に行くようにするにはイベントの回数を増やすしかないと思う。無形文化財については、後継者を育てるのが大変だと聞いたことがある。
- 委員： 無形文化財に関しては、「やまと子ども伝統文化塾」という授業があって、3月に発表会も兼ねたフェスティバルを実施しており、数年前からは子どもたちの発表に交えて、福田神社や薬王院の方々も実演してくださっていた。最近では、実演の後に子どもに体験してもらう時間を設けるなど、少しずつ工夫され始めているので、期待していきたいと思っている。
- 会長： ほかに意見や質問はあるか。個別目標1－2で、市民の医療に対する満足度に地域差があるという記載があるが、具体的にどのような差があるのか。
- 事務局： 市民意識調査の「安心して医療を受けられる体制が整っていると思う」市民の割合について、全ての地域で60%は超えているが、つきみ野地区と南林間・鶴間地区が70%を超えている一方で、相模大塚地区が60%程度と若干の差があった。
- 会長： 次に第2評価部会の副部会長から報告をお願いします。
- 委員： **【資料2－1～2－6について報告】**
- 会長： ただいまの報告を受けて、質問や意見はあるか。
- 委員： 多文化共生に関わって、大和国際化協会や市の国際・男女共同参画課があるが、外国の方やボランティアの方がそこに集っているところを見たことがない。相模原市では、「国際交流ラウンジ」という場所があり、スタッフの半分くらいが外国の方で、日本語を勉強したり、子どもを保育したりしていて、日本人も外国の方もたくさん集っている。大和市にはそういう場所がないと思うので、他市の事例を参考にしながら取り入れてもらいたい。

- 事務局 ： 大和国際化協会は、外国の子どもたちに日本語を教える機会をつくったり、屋台村などのイベントを実施したりするための事務的な作業を行っている。国際的な交流の拠点が必要だという問題意識はもっており、例えば、現在の図書館を改修するときに、そういったスペースをもうけることなども検討しているところである。
- 会長 ： 外国の方も積極的にスタッフになっていけるとよいが、外国の方だけの拠点になってしまうと、多文化共生ではなくなってしまうので、バランスが大切だと思う。評価部会の審議の中では、子どもは語学の習得能力が高いので、学校が交流の場になって、子どもが親を引っ張ってくるような仕組みをつくれるとよいという話もあった。

以 上